

日本学術会議総合工学委員会原子力事故対応分科会

公開シンポジウム「安全な原子力であることの要件－福島原子力事故の教訓－」開催報告

タイトル：安全な原子力であることの要件－福島原子力事故の教訓－

日時：平成26年3月5日（水）13時30分～17時40分

場所：日本学術会議講堂

開催趣旨：東京電力福島第一原子力発電所事故は、総合技術としての原子力技術に重大な欠落があったことを顕在化させた。本シンポジウムにおいては、福島原子力事故で得られた教訓を生かすことの重要性に鑑み、今後、何らかの形で原子力を利用する場合に欠かすことのできない「安全な原子力であることの要件」について議論する。

主催：日本学術会議総合工学委員会原子力事故対応分科会

参加者数：149名

講演者および講演内容

司会：山地 憲治（日本学術会議第三部会員、公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）理事・研究所長）

- ◆ はじめに主催者を代表して矢川 元基（[日本学術会議連携会員、公益財団法人原子力安全研究協会理事長](#)）より、[開会挨拶があり、開催趣旨の説明](#)を行った。
- ◆ また、日本学術会議を代表して大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、東京大学名誉教授）から挨拶があった。
- ◆ [澤田 隆（日本学術会議特任連携会員、一般社団法人日本原子力学会理事・事務局長）](#)
[「東日本大震災と福島原子力事故の発生」](#)
東日本大震災による福島原子力事故の発生と経緯概要および放出放射性物質量の概要が紹介された。
- ◆ [成合 英樹（日本学術会議特任連携会員、筑波大学名誉教授）](#)
[「発電用原子炉の開発と日本の取組み、顕在化した課題とその背景」](#)
我が国における発電用原子炉の開発の経緯を説明し、顕在化した課題とその背景が紹介された。
- ◆ [関村 直人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）](#)
[「原子力安全に関する具体的課題」](#)
福島事故を踏まえ、原子力安全に関する具体的課題が紹介された。
- ◆ [柴田 徳思（日本学術会議連携会員、公益社団法人日本アイソトープ協会常務理事）](#)
[「放射線被ばくの現状と人体影響」](#)
福島事故による住民被ばくの現状と、低線量被ばくの人体への影響について紹介があった。
- ◆ [松岡 猛（日本学術会議第三部会員、宇都宮大学非常勤講師）](#)
[「原子力の安全とリスクの考え方」](#)
原子力の安全を確保する上でリスクの考え方を導入する必要性について紹介があった。
- ◆ 矢川 元基の司会で、下記パネリストによる「安全な原子力であることの要件」に関するパネルディスカッションが行われた。
[岩田 修一（日本学術会議連携会員、事業構想大学院大学教授）](#)、[笹尾真実子（日本学術会議連携会員、東北大学大学院名誉教授、同志社大学研究開発推進機構嘱託研究員）](#)、[白鳥 正樹（日本学術会議連携会員、横浜国立大学名誉教授、同安心・安全の科学研究教育センター客員教授）](#)、[竹田 敏一（日本学術会議連携会員、福井大学附属国際原子力工学研究所特任教授）](#)、[宮野 廣（法政大学大学院客員教授）](#)、[山本 一良（日本学術会議連携会員、名古屋大学理事（教育・情報関係担当）・副総長）](#)
パネルディスカッションでは、聴講者との活発な質疑応答、議論が交わされた。

最後に山地 憲治よりまとめと閉会の挨拶があった。

※講演内容詳細については、上記のリンク先（PDF）を参照